

令和5年度可燃ごみ組成調査の結果について**(1) 調査の概要**

本調査は、家庭から排出される「可燃ごみ」について、その組成を分析し、ごみ組成や分別状況及び資源化可能物を把握することにより、前回調査との比較を行うとともに、今後の廃棄物減量施策検討の基礎資料を目的に実施しました。

また、今年度は地域の特性を把握するため木津地域、加茂地域、山城地域の地域別に調査を実施しました。

サンプル収集日：10月20日（金）、21日（土）〔木津地域〕

10月28日（土）〔加茂、山城地域〕

サンプル収集量：約977kg（約260世帯分）

木津地域	594kg
加茂地域	220kg
山城地域	163kg

調査実施日：10月22日（日）〔木津地域〕

10月29日（日）〔加茂、山城地域〕

調査サンプル量：約514kg

木津地域	274kg
加茂地域	120kg
山城地域	120kg

調査方法：調査員20名により、手作業で各項目へ分類

分類項目：約100項目

(2) 指定ごみ袋等の種類別使用割合

調査サンプルの排出に用いられた指定ごみ袋の使用割合は、表1-1のとおりです。

45ℓが最も利用されており、次いで30ℓ、15ℓ、7ℓと続きます。前年度と比較すると、45ℓの使用割合が減少し30ℓと15ℓと7ℓの使用割合が増加しました。小さいサイズの需要が伸びたことが分かるとともに、指定ごみ袋の減量によるサイズダウンが図られていることが考えられます。

《表1-1》

種類	使用割合		増減
	令和4年度	令和5年度	
45ℓ	42.0%	32.5%	▲9.5%
30ℓ	26.0%	27.3%	1.3%
15ℓ	17.6%	23.8%	6.2%
7ℓ	12.8%	12.9%	0.1%
その他	1.6%	3.5%	1.9%
合計	100.0%	100.0%	—

地域別に見ると、全ての地域で45ℓ・30ℓの大きなサイズの利用率が高く、15ℓ・7ℓの小さなサイズの利用が低くなっています。

《表1-2》

種類	木津地域	加茂地域	山城地域
45ℓ	30.4%	33.3%	39.6%
30ℓ	28.4%	24.6%	27.1%
15ℓ	24.2%	27.5%	16.7%
7ℓ	13.4%	13.1%	10.4%
その他	3.6%	1.5%	6.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 成分別の重量構成比

《表2-1》

成分	令和4年度	令和5年度	増減
プラスチック類	11.6%	14.2%	2.6%
紙類	30.4%	27.9%	▲2.5%
繊維類	6.7%	6.5%	▲0.2%
草木・木片類	4.8%	14.0%	9.2%
厨芥類	36.2%	33.6%	▲2.6%
ガラス・金属等	1.3%	0.2%	▲1.1%
その他	9.0%	3.6%	▲5.4%
合計	100.0%	100.0%	—

重量構成比を比較すると、プラスチック類、草木・木片類が増加しているものの、それ以外のごみは減少しています。構成比が高い成分の順位は同様の傾向となっています。

【重量構成比の上位】

- 1位：厨芥類 33.6% (36.2%)
 2位：紙類 27.9% (30.4%)
 3位：プラスチック類等 14.2% (11.6%) ※ () は前年度数値

《表2-2》

成分	木津地域	加茂地域	山城地域
プラスチック類	15.6%	10.0%	10.9%
紙類	28.5%	26.1%	27.6%
繊維類	8.0%	2.6%	3.1%
草木・木片類	11.7%	24.5%	11.0%
厨芥類	31.8%	34.6%	44.6%
ガラス・金属等	0.2%	0.4%	0.6%
その他	4.2%	1.8%	2.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

地域別に見ると、他の2地域と比べて木津地域はプラスチック類、加茂地域は草木・木片類、山城地域は厨芥類が多かった。

(4) 各成分のうち、再生利用又は減量が可能な項目の状況

各成分のうち、再生利用や減量が可能な項目の状況は、表3-1のとおりです。

前年度と比べて、ビニール・プラスチック容器包装以外は減少しましたが、まだまだ分別・再生可能なものが含まれております。

《表3-1》

成分	主な再生等が可能な項目	令和4年度	令和5年度	増減
プラスチック類	ビニール・プラスチック容器包装	7.8%	8.5%	0.7%
紙類	再生可能な紙類	11.8%	7.7%	▲4.1%
繊維類	再生可能な繊維類	1.7%	0.4%	▲1.3%
厨芥類	手つかず食品	7.9%	4.4%	▲3.5%
ガラス・金属等	正しい分別で全量の減量が可能	0.2%	0%	▲0.2%
再生等が可能な項目の合計		29.4%	21.0%	▲8.4%

《全体的な留意事項》

表4-1中、「ビニール・プラスチック容器包装」は、汚れている物を含んでいるため、全てが再生利用できるとは限りませんが、組成調査では汚れた時点が不明であり更に詳細な分類が困難なため、汚れていなければ再生利用可能な物を全て集計しています。

地域別に見ると、木津地域は他の2地域と比べてビニール・プラスチック容器包装と紙類が多く、山城地域は他の2地域と比べて厨芥類（手つかず食品）が多くなっています。

《表3-2》

成分	主な再生等が可能な項目	木津地域	加茂地域	山城地域
プラスチック類	ビニール・プラスチック容器包装	8.9%	6.6%	6.9%
紙類	再生可能な紙類	8.4%	6.2%	6.2%
繊維類	再生可能な繊維類	0.1%	1.1%	0.7%
厨芥類	手つかず食品	4.3%	3.6%	6.7%
ガラス・金属等	正しい分別で全量の減量が可能	0.0%	0.0%	0.2%
再生等が可能な項目の合計		21.7%	17.5%	20.7%

(5) 食品ロスの状況

ごみ全体に占める手つかず食品の割合は約4%、食べ残しは約4%であり、食品ロスの割合は約9%であり、昨年度の約14%から減少した。

《表4-1》

項目		全体に占める割合		増減
		令和4年度	令和5年度	
手つかず食品	賞味期限超過	1.2%	1.3%	0.1%
	消費期限超過	0.4%	0.3%	▲0.1%
	賞味期限未到達	0.5%	0.1%	▲0.4%
	消費期限未到達	0.2%	0.0%	▲0.2%
	期限不明	1.6%	1.1%	▲0.5%
	野菜・果実（購入品）	1.5%	0.6%	▲0.9%
	野菜・果実（家庭菜園）	2.4%	1.0%	▲1.4%
	小計	7.8%	4.4%	▲3.4%
食べ残し		6.1%	4.1%	▲2.0%
食品ロス 計		13.9%	8.5%	▲5.4%
一般厨芥類		22.3%	25.0%	2.7%
厨芥類合計		36.2%	33.5%	▲2.7%
厨芥類以外の計		63.8%	66.5%	2.7%
合計		100.0%	100.0%	—

地域別に見ると、木津地域は家庭菜園より収穫された野菜・果実、加茂地域は賞味期限超過の手つかず食品、山城地域は期限不明の手つかず食品が少なくなっています。

《表4-2》

項目		全体に占める割合		
		木津地域	加茂地域	山城地域
手つかず食品	賞味期限超過	1.4%	0.4%	1.8%
	消費期限超過	0.4%	0.2%	0.3%
	賞味期限未到達	0.0%	0.0%	0.7%
	消費期限未到達	0.0%	0.0%	0.1%
	期限不明	1.3%	0.7%	0.3%
	野菜・果実（購入品）	0.7%	0.5%	0.4%
	野菜・果実（家庭菜園）	0.5%	1.9%	3.1%
	小計	4.3%	3.7%	6.7%
食べ残し		3.0%	5.8%	8.2%
食品ロス 計		7.3%	9.5%	14.9%
一般厨芥類		24.5%	25.2%	29.7%
厨芥類合計		31.8%	34.7%	44.6%
厨芥類以外の計		68.2%	65.3%	55.4%
合計		100.0%	100.0%	100.0%

